

浦安市における都市排熱利用モデル構想 ～既成市街地の下水道インフラを活用した持続可能性の高い熱利用システム～

代表提案者	浦安市市長公室企画政策課
協同提案者	

浦安市は4km四方のコンパクトな都市ながら、多数の大規模集合住宅や大型観光施設を含むエネルギーの大消費地である。全域が都市部ゆえ、再生可能エネルギー資源は乏しいが、高い下水道普及率が特徴である。そこで都市部特有の都市排熱である「下水熱」に着目し、本構想では、I.下水熱利用ポテンシャルマップの作成、II.市内での下水熱利用のモデル事業の実施の2つのプロジェクトを推進することで「既成市街地の下水道インフラを活用した持続可能性の高い熱利用システム」を目指すものである。

- ◆ ポテンシャルマップ作成は、環境省・国土交通省連携事業「下水熱等未利用熱ポテンシャルマップ策定事業」の活用を想定。
- ◆ ポテンシャルマップを基に、浦安市としての下水熱利用構想を策定。同時に、下水熱利用について市民や事業者へ周知啓発を図る。
- ◆ ポテンシャルマップを公表し、開発などを予定する民間事業者へ情報提供を行い、下水熱利用の検討を促進する。

- ◆ モデル事業に関わる、事業者、熱供給家、熱需要家との合意の上、最適な事業スキームを検討する。
- ◆ 事業採算性、官民の事業境界・役割分担整理等を検討する。

II.市内での下水熱利用のモデル事業の実施

- ◆ ポテンシャルマップ作成後、モデル事業として最適な地域を決定
- ◆ モデル事業を通じて課題の洗い出しおよび解決策の検討を開始する。
- ◆ 浦安市民や事業者への下水熱利用に関する周知啓発をモデル事業を通じて行っていく。

